

教科	・児童の課題○重点目標	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を声に出して正しく読んだり、内容を正確につかんだりすることに課題がある児童が多い。</li> <li>漢字の読み書きを苦手としている児童が多い。</li> </ul> ○読む、書くことの基礎基本的な技能を伸ばし、文章の内容を正確に捉えたり、自分の意見をわかりやすく述べたりすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の冒頭の時間に漢字練習、音読練習の時間を取り、継続して基礎学力を高められるようにする。</li> <li>定期的に漢字テストを行い、児童が自分のがんばりや成長を感じられるようにする。また、学習した漢字は普段から積極的に使うように声かけする。</li> <li>ICT 機器も積極的に活用しながら、児童同士の交流の機会を多くする。その際、必要に応じて話型や話す観点を示すなど、自分の考えをわかりやすくつたえるための工夫について、児童が学べるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>既習事項の定着状況に差があり、基礎的な計算の技能も定着していない児童がいる。</b></li> <li>文章問題の要点の読み取りを苦手としている児童もあり、基礎・基本クラスでは立式が進まないことも多い。</li> <li>図形の作図が正確に行えない児童がいる。</li> </ul> ○既習事項の振り返りを重点的に行い、基礎的な計算方法や図形についての知識などの定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の導入で、関係する既習事項の振り返りを行い、基礎となる既習事項の定着を図る。</li> <li><b>文章問題では、要点に下線を入れたり、印をつけたりする作業を繰り返し行うことで、文章からの要点の読み取りの仕方を定着させていく。</b></li> <li>図形の作図の際に、用具の使用方法的確認を都度行い、正確に作図を行えるように支援する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を解決するための実験を考えたり、見通しをもって学習を進めたりする経験が不十分である。</li> <li>実験の結果や観察したことから、筋道立てて考え、考察していくことを苦手としている児童が多い。</li> </ul> ○課題を解決するための見通しをもったり、実験の結果から筋道立てて考えたりすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決型学習の基本を確認しながら、自分たちで実験計画、学習計画を立てる時間を単元の最初に設ける。</li> <li>実験の後には、ノート（ICT 機器）に考察をまとめる時間をきちんと確保する。その際、友達同士の交流、教員の確認も積極的に行い、「筋道立てて考える」とはどのようなことかを児童が理解できるようにする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要語句の意味理解や、基礎的な知識の習得が不十分である。</li> <li>資料の中から必要な情報を取り出し、項目ごとに分けてまとめることが苦手な児童が多い。</li> </ul> ○基礎的な知識・技能を定着させ、様々な資料を使いながら、児童が自分たちで調べ学習を行っていけるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図の見方や、グラフの読み方、語句の意味などを適宜指導し、調べ学習を円滑に行うための基礎的な知識の定着を図る。</li> <li>インターネットや紙媒体など、メディアの違いによるメリットやデメリットを明確にし、適切に活用する方法を確認する。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱やリコーダーの演奏では、正しい奏法を習得しているが、曲想を感じ取ったり、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な曲想の曲を歌ったり演奏したりしたあとに感じ取った曲想を共有することで曲想を感じ</li> </ul>

	<p>歌詞の内容や曲想にふさわしい工夫を考えたり、考えた表現を生かして演奏したりする力が不十分である。</p> <p>○曲にふさわしい音楽表現を考える力を身に付け、それらを生かして演奏する技術を育むことを重点目標とする。</p>	<p>取れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 感じ取った曲想から表現の工夫を考えるために、強弱や音色の種類などの掲示物を活用する。</li> <li>• 考えた表現の工夫を生かして演奏するために、自分たちの演奏を録音して聴くことで、良かったところや改善点を思考させ、練習に取り組むことを繰り返す。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体全体を使って表現を楽しむ児童が多い。一方で、イメージしたことを具体的に表現することに苦手意識をもつ児童も見られる。</li> </ul> <p>○既習の表現の仕方を確認し、多様な表現方法を試行錯誤することで自分の見方や感じ方を広げていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 作品例や技法、材料の生かし方に触れ、自由に表現する時間を確保する。</li> <li>• 作品鑑賞の活動を設定し、互いの表現のよさを認め合い、意欲的に活動に取り組めるようにする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ゲームをする中で、作戦や動き方の工夫について考え、チームで話し合い改善していく力が不十分である。</li> <li>• 授業の中で楽しみながら運動を行っているが、自己の運動についてふり返り、どのように改善していくかを考える力が不十分な児童が多い。</li> </ul> <p>○自己（チーム）の課題を明確にし、意図をもって運動に取り組むことで、自己（チーム全体）の技能を高められるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ゲームの前に作戦を考える時間をとったり、ゲームの間にお互いにアドバイスをし合う時間をとったりして、工夫しやすい環境を作る。</li> <li>• 振り返りカードの記入時間をしっかりと設け、児童が自分の課題に向き合えるようにする。また、友達と積極的にコミュニケーションをとったり、ICT 機器を使ったりすることを促し、課題解決のためにどのようなことをしていけばよいのかを児童が自ら見つけていけるように工夫する。</li> </ul>

※ なお、各教科において、端末は対話的な学びや記録の蓄積等に常時生かすようにする。